

四半期報告書

(金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2023年7月1日
(第78期第2四半期) 至 2023年9月30日

エレマテック株式会社

東京都港区三田三丁目5番27号

(E02941)

目 次

	頁
表 紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 事業の内容	1
第2 事業の状況	
1. 事業等のリスク	2
2. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3. 経営上の重要な契約等	3
第3 提出会社の状況	
1. 株式等の状況	4
2. 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1. 四半期連結財務諸表	8
2. その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年10月27日
【四半期会計期間】	第78期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	エレマテック株式会社
【英訳名】	Elematec Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横出 彰
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03（3454）3526
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレート本部長 深水 正浩
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館19階
【電話番号】	03（3454）3526
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレート本部長 深水 正浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第2四半期 連結累計期間	第78期 第2四半期 連結累計期間	第77期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高 (百万円)	123,167	102,135	239,774
経常利益 (百万円)	6,122	4,203	11,130
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (百万円)	4,164	3,060	7,696
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,747	4,554	8,512
純資産額 (百万円)	63,918	68,125	65,577
総資産額 (百万円)	122,735	121,876	113,913
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	101.71	74.75	187.96
自己資本比率 (%)	52.1	55.9	57.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,820	10,731	4,910
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△439	△581	△872
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△783	△2,822	△2,299
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高 (百万円)	27,563	41,248	32,966

回次	第77期 第2四半期 連結会計期間	第78期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	63.80	43.98

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生したリスク及び前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について変更した重要な事項はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況の概要

① 財政状態及び経営成績の状況

a. 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、「現金及び預金」が増加したこと等により、前連結会計年度末比7.0%増の1,218億76百万円となりました。

負債は、「支払手形及び買掛金」が増加したこと等により、前連結会計年度末比11.2%増の537億50百万円となりました。

純資産は、「利益剰余金」及び「為替換算調整勘定」が増加したこと等により、前連結会計年度末比3.9%増の681億25百万円となりました。なお、自己資本比率は、55.9%となりました。

b. 経営成績

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、経済活動の正常化を背景に、個人消費の持ち直しと雇用情勢の改善が進み、緩やかな回復基調が続きました。一方、ウクライナ情勢の長期化や、世界的な金融引き締めの影響による景気減速など、世界経済の先行きは不透明な状況で推移しました。

エレクトロニクス業界におきましては、自動車の電装化の需要は拡大傾向で推移したものの、中国の景気回復の遅れや、スマートフォンの需要縮小の影響等により、電子部品の生産は低調に推移しました。

このような状況の中、当社グループは、自動車向け各種関連部材に注力した販売活動に努めましたが、ディスプレイ向け各種関連部材等の販売低迷の影響を受け、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比17.1%減の1,021億35百万円となりました。

営業利益は、売上高の減少に伴う売上総利益の減少に加え、第1四半期連結累計期間において、特定顧客の民事再生手続き開始の申立てに伴い、同社に対する棚卸資産及び売掛金につき、棚卸資産の評価損(売上原価)及び貸倒引当金繰入額(販売費及び一般管理費)を計上したことから、前年同期比31.3%減の45億56百万円となりました。

経常利益は、営業利益が減少したことから、前年同期比31.3%減の42億3百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益が減少したことから、前年同期比26.5%減の30億60百万円となりました。

セグメント別の概況

当社グループの報告セグメントを基にした、当第2四半期連結累計期間における地域別販売状況の概要は、以下のとおりであります。

(日本)

売上高は、ドライブレコーダー等のアフターマーケット向け製品の販売が減少したことから、前年同期比14.0%減の565億56百万円となりました。営業利益は、前年同期比55.5%減の13億52百万円となりました。

(中国)

売上高は、ディスプレイ向け各種関連部材の販売が減少したことから、前年同期比26.2%減の219億80百万円となりました。営業利益は、前年同期比14.8%減の15億41百万円となりました。

(その他アジア)

売上高は、電子部品向け各種関連部材の販売が減少したことから、前年同期比26.9%減の141億60百万円となりました。営業利益は、前年同期比15.5%減の7億47百万円となりました。

(欧米)

売上高は、自動車向け各種関連部材の販売が増加したことから、前年同期比15.0%増の94億38百万円となりました。営業利益は、前年同期比72.1%増の4億7百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より82億81百万円増加し、412億48百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、107億31百万円の収入（前年同期は28億20百万円の支出）となりました。主な要因としましては、税金等調整前四半期純利益が42億3百万円、売上債権の減少による資金獲得が36億84百万円、棚卸資産の増加による資金流出が5億18百万円、仕入債務の増加による資金獲得が35億88百万円、法人税等の支払による資金流出が14億9百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、5億81百万円の支出（前年同期は4億39百万円の支出）となりました。主な要因としましては、有形固定資産の取得による資金流出が5億16百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、28億22百万円の支出（前年同期は7億83百万円の支出）となりました。主な要因としましては、配当金の支払による資金流出が20億6百万円であります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題については重要な変更はありません。

(3) 会社の支配に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの会社の支配に関する基本方針については重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループは、得意先、仕入先と共同で商品開発に取り組んでおりますが、技術開発の主体は相手方にあるため、特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	168,000,000
計	168,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年10月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	42,304,946	42,304,946	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	42,304,946	42,304,946	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	—	42,304,946	—	2,142	—	2,017

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対 する所有株 式数の割合 (%)
豊田通商株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目9-8	24,005	58.63
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,315	5.66
エレマテック社員持株会	東京都港区三田3丁目5-27 住友不動産三田ツインビル西館19階	1,122	2.74
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	829	2.03
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	772	1.89
大阪中小企業投資育成株式会社	大阪府大阪市北区中之島3丁目3番23号	583	1.43
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決 済営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02 101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシテ ィA棟)	258	0.63
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシテ ィA棟)	253	0.62
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決 済営業部)	100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONTO, ONTARIO M5X 1A9 CANADA (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシテ ィA棟)	180	0.44
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・ エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	173	0.42
計	—	30,495	74.48

(注) 1. 上記所有持株数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 2,315千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口) 772千株

2. 当社は、自己株式を1,358,737株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

3. 2023年9月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、FMR LLCが2023年8月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は次の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
FMR LLC	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA	1,649,500	3.90

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,358,700	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 40,925,000	409,250	—
単元未満株式	普通株式 21,246	—	—
発行済株式総数	42,304,946	—	—
総株主の議決権	—	409,250	—

② 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
エレマテック株式会社	東京都港区三田三丁目 5番27号	1,358,700	—	1,358,700	3.21
計	—	1,358,700	—	1,358,700	3.21

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,966	41,248
受取手形及び売掛金	57,906	※ ₂ 56,129
棚卸資産	※ ₁ 15,354	※ ₁ 16,669
その他	1,080	1,007
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	107,306	115,052
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,294	2,250
減価償却累計額	△1,693	△1,637
建物及び構築物（純額）	600	613
土地	1,066	1,013
その他	4,954	5,453
減価償却累計額	△3,189	△3,528
その他（純額）	1,764	1,925
有形固定資産合計	3,431	3,552
無形固定資産		
ソフトウェア	287	253
その他	0	0
無形固定資産合計	287	253
投資その他の資産		
投資有価証券	547	592
繰延税金資産	1,186	1,142
投資不動産	302	298
破産更生債権等	3,645	1,164
退職給付に係る資産	366	356
その他	501	646
貸倒引当金	△3,664	△1,183
投資その他の資産合計	2,887	3,017
固定資産合計	6,606	6,823
資産合計	113,913	121,876

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,311	※2 45,742
短期借入金	1,093	555
未払法人税等	1,503	1,045
賞与引当金	415	1,048
役員賞与引当金	-	25
その他	3,206	3,292
流動負債合計	46,530	51,709
固定負債		
繰延税金負債	1,486	1,633
退職給付に係る負債	128	150
その他	189	257
固定負債合計	1,804	2,041
負債合計	48,335	53,750
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,142	2,142
資本剰余金	3,335	3,335
利益剰余金	57,412	58,467
自己株式	△694	△694
株主資本合計	62,196	63,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	171	200
為替換算調整勘定	2,999	4,479
退職給付に係る調整累計額	211	194
その他の包括利益累計額合計	3,381	4,875
純資産合計	65,577	68,125
負債純資産合計	113,913	121,876

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	123,167	102,135
売上原価	109,187	89,794
売上総利益	13,980	12,341
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	2,312	2,480
役員報酬	66	71
運賃及び荷造費	1,343	1,147
法定福利費	506	515
旅費及び交通費	213	315
減価償却費	277	279
賞与引当金繰入額	997	874
役員賞与引当金繰入額	19	25
退職給付費用	95	103
貸倒引当金繰入額	△17	320
その他	1,535	1,651
販売費及び一般管理費合計	7,351	7,784
営業利益	6,628	4,556
営業外収益		
受取利息	16	44
貸貸収入	41	45
固定資産売却益	0	-
その他	19	30
営業外収益合計	77	120
営業外費用		
支払利息	24	32
貸貸費用	18	17
為替差損	528	421
その他	10	1
営業外費用合計	583	473
経常利益	6,122	4,203
税金等調整前四半期純利益	6,122	4,203
法人税等	1,958	1,143
四半期純利益	4,164	3,060
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,164	3,060

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	4,164	3,060
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28	29
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	1,630	1,480
退職給付に係る調整額	△18	△17
その他の包括利益合計	1,583	1,493
四半期包括利益	5,747	4,554
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,747	4,554

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,122	4,203
減価償却費	559	548
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△17	△2,555
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,240	3,684
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	1	2,556
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,474	△518
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,819	3,588
その他	536	612
小計	△1,332	12,119
利息及び配当金の受取額	25	54
利息の支払額	△22	△32
法人税等の支払額	△1,491	△1,409
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,820	10,731
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△443	△516
無形固定資産の取得による支出	△20	△19
投資不動産の賃貸による収入	29	34
その他	△5	△80
投資活動によるキャッシュ・フロー	△439	△581
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	886	△629
リース債務の返済による支出	△197	△185
配当金の支払額	△1,473	△2,006
財務活動によるキャッシュ・フロー	△783	△2,822
現金及び現金同等物に係る換算差額	854	953
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,189	8,281
現金及び現金同等物の期首残高	30,753	32,966
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 27,563	※ 41,248

【注記事項】

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間よりIAS12号の修正「単一の取引から生じた資産及び負債に関連する繰延税金」を適用しております。

この適用により、取引時に同額の将来加算一時差異と将来減算一時差異を生じさせる取引に関する当初認識時の会計処理が明確化され、当該将来加算一時差異と将来減算一時差異について繰延税金負債及び繰延税金資産が連結貸借対照表にそれぞれ認識されます。

なお、当該会計方針の変更による、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 棚卸資産の内訳科目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
商品及び製品	14,874百万円	16,087百万円
原材料	479	581

※2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休業日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	-百万円	172百万円
支払手形	-	19

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	27,563百万円	41,248百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	27,563	41,248

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月23日 取締役会	普通株式	1,474	36	2022年3月31日	2022年6月22日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月28日 取締役会	普通株式	1,105	27	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月22日 取締役会	普通株式	2,006	49	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月27日 取締役会	普通株式	1,637	40	2023年9月30日	2023年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	中国	その他 アジア	欧米	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	65,800	29,801	19,361	8,204	123,167	-	123,167
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	25,725	7,164	4,715	1,443	39,049	(39,049)	-
計	91,525	36,966	24,077	9,647	162,217	(39,049)	123,167
セグメント利益	3,038	1,807	885	236	5,967	660	6,628

(注) 1. セグメント利益(営業利益)の調整額は、セグメント間の消去額を記載しております。

2. 日本以外の各セグメントに属する国または地域は、次のとおりであります。

(1) 中国……………中国(香港を含む)

(2) その他アジア…韓国、インド、東南アジア等

(3) 欧米……………米国、メキシコ、チェコ

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	中国	その他 アジア	欧米	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	56,556	21,980	14,160	9,438	102,135	-	102,135
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,471	7,683	3,896	737	29,788	(29,788)	-
計	74,027	29,664	18,056	10,175	131,924	(29,788)	102,135
セグメント利益	1,352	1,541	747	407	4,048	508	4,556

(注) 1. セグメント利益(営業利益)の調整額は、セグメント間の消去額を記載しております。

2. 日本以外の各セグメントに属する国または地域は、次のとおりであります。

(1) 中国……………中国(香港を含む)

(2) その他アジア…韓国、インド、東南アジア等

(3) 欧米……………米国、メキシコ、チェコ

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	101円71銭	74円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	4,164	3,060
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	4,164	3,060
普通株式の期中平均株式数(千株)	40,946	40,946

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年10月27日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議致しました。

(イ) 配当金の総額……………1,637百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………40円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2023年12月4日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年10月27日

エレマテック株式会社
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木内 仁志

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 佳之

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエレマテック株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エレマテック株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。